

楽しいOL物語

花井愛子



——我が愛すべきヤング・デイズ——

工業学院図書館
蔵書章

楽しいOL物語

我が愛すへきヤシク・デイズ

花井愛子



ラテン語の「bene=よく」と「esse=生きる」
からつくったのがBenesse(ベネッセ)です。
私たちは、ひとりひとりの充実した生活や向
上意欲のサポートをしています。

花井愛子〈はない・あいこ〉

神戸生まれ。私立南山中学・高等学校女子部卒。同短期大学英語科
中退。OL、コピーライターを経て、1987年には講談社X文庫ティ
ーンズハート『一週間のオリーブ』で少女小説家としてデビュー。
ヒット作『山田ババアに花束を』は、ミュージカル化、映画化され
て人気を呼んだ。小説、エッセイも手がけ、テレビ、ラジオ番組へ
の出演も多い。近著に『マネー・ストリッパー』（徳間書店）、『にぎ
やかなハッピー・エンド』（扶桑社）などがある。

楽しいOL物語

我が愛すべきヤング・デイズ

1997年4月5日 第1刷印刷

1997年4月10日 第1刷発行

著 者 花井 愛子

発行者 谷口 正彦

発行所 株式会社 ベネッセコーポレーション

〒206-88 東京都多摩市落合1-34

電話 ご注文・問い合わせ(0480)23-9233

編集(0423)56-0940

印刷所 共同印刷

製本所 大口製本

©Aiko Hanai 1997 Printed in Japan

ISBN4-8288-1798-0 C0093 NDC914 194 240P

乱丁・落丁本はお取替えいたします

定価はカバーに表示してあります

○ ま え が き

ここんところ。わりと、たて続けに。あちこちの「イマドキの若いお嬢さん」から。

「花井さんのOL時代の話、聞かせてくださいよー」

というリクエストを受けました。花井愛子でございます。こんにちは。ども……。
んで、ですね。私としては。

「えー。んなもんー。20年昔、イコール、ふた昔前のコトだから、さーあー……」
とてもじゃない「イマドキお嬢さん」の役には、立たないでしょー。
と。

苦笑いして、逃げてたんですが。

「そこを!! なんとかっ。ぜひっ!! プリーズ!! ウォンチュー!!」

食いさがられちゃうと、根が、おつちよこちよいな、私だ。

「そーおー!? あのださー。つまんないかもしれないけど、ねーえ」

て、飲み会の席なんかで、しゃべっちゃったりしたワケです。

ところが、だね。

意外にも、みんな、ウケてくれる（その場のヨイショかも、だが）のみならず。

「エッセイの本で、出してくださいよー!!」

とまで、持ちあげてくれまして、ね……。

そんなこんなで。お調子者でアルことは、決して誰にも負けない（——エバれるもんじやないデスけど）私は。

書いてしまいました、私の、ハタチそこその頃の、思い出話——。

ほんのちよっぴりでも、あなたの、なにかの元気のもとになれば、幸いです。

では、本文へ。どーぞ♡

❖ CONTENTS ❖

まえがき	1
. . .	
OLは、考えるべきである。	6
OLは、選ぶべきである。	34
OLは、驚くべきである。	82
OLは、溶けこむべきである。	118
OLは、緊張すべきである。	150
OLは、楽しくあるべきである。	204
. . .	
あとがき	233



こんにちは、有田リリコです。
OL経験までナシ、このワタクシが
今週 イラストを担当させて頂くことになりました。
ちなみに 花井さんとは、時々ジョージアを...
...いや酒を... ジョージアする仲。
...ということ、ひと、おしく〜!!!

装丁／神崎夢現

カバー写真／岡崎正人 (©1993 SANRIO CO.,LTD.)

イラスト／有田リリコ

楽しいOL物語

——我が愛すべきヤング・デイズ——

〇〇」は、考えるべきである。

OLに、なりたくないっ!!

——とは。

思っちゃいなかったのだ。いや、ホントの話。

私、花井愛子、19歳当時のコトである。

いちおう、短大の、2年目だった。

でも、ちょっと笑っちゃうんだけど、私は、そのときまだ「短大1年生」だった。
なぜか!!

私、短大の1年生を、途中で「休学」したのである。

てなふーに書くと。

「あ！ 海外留学とかに行つたんですかー」

なーんてカッコいいほうに考えてくれちゃうヒトが、いるかもしれないが。
ナサケないけど、違うんだな。

表向きの「ちゃんとしてる」理由は「病氣治療のため」だったりする。
ウソじゃない。

腎臓を、少しばかりダメにしてしまった。

でも。たぶん。あんまり堂々とヒトさまに言えるよーな病名じゃない、と思う。

「遊走腎^{ゆうそうじん}」――。

うーむ……。

こうして、あらためて久々に文字にしてみると、やっぱり苦笑してしまうな……。
腎臓が「遊んで」「走って」るビョーキって……。

なんか、マヌケだ。

私、医学的に、実は、どーなのか、いまだによくわかってないんだが。

腎臓というのは、体内で、けっこうびっしりとした脂肪にサポートされる形で、その定位置を保っているモノ……、らしい。

ところが。なんらかの原因でもって、腎臓を支えてる脂肪が、ごそつと失われちゃった場合。腎臓が不安定になってしまつて、正しく働かなくなる……、んだそーだ。

おろおろ、ウロウロする腎臓……。

なんてえの？

脂肪が、ぬくぬくのフカフカのソファだとしたら。いきなり、それを取っぱらわれて、座りどころをなくしてアタフタしてる「腎臓ちゃん」てトコですかね。

んで、まあ……。

症状の軽い重いのは、あるんですが。

短大1年に入ったばかりだった私の例だと、なんだかめちやくちやに毎日カラダが、だるくてー。微熱も続くよーでもありー。腰のあたり、ヘンに痛くてー。

エトセトラでもって、検査受けたらば。

「これは『遊走腎』です。安静治療を必要としますね」

で、お医者さまの診断が、出たワケだ。

原因は、てえと。

おそらく。

「過激なダイエット、でしょうねえ」

とのこと。

高3の終わりあたりで44キロだった体重を、私、ほとんど食べないメチャな方法でもって、38キロにまで落としてしまったのでありました。

ちなみに身長は、現在と変わらず。154センチだった。

「え？ だったらー。その身長だったら、あたしー。38キロでも健康ですけどー？」
て疑問、出るかしんない。

出ても、不思議じゃないなー。

“もともと”やせ型のヒトなら、この身長で、その体重でも、さほど問題ないはずなんだ。私は、ですねー。

“もともと”デブ体質なのだよ。

幼い頃から、み、つ、ち、り、と、カラダに肉がついてるタイプだった。

ぼてぼて太り、てんじゃなくて。

よく動き、よく食って、ぱんぱかに肉体が、張っちゃってるコドモ。

たとして言うなら “柿^{かき}ヨーカン” ……。

ほれ。ちっちゃなゴムに入ってる、まんまん丸の。爪楊子^{つまようじ}でプチッと刺すと、外側のゴ

ムが、ぷるりとむけちまう、アレですな（若いヒトは、知らないかもしれない……）。

なんせ、充実してて丸かった私で。

中2の冬あたり、なんと同じ身長154センチで、60キロまで行ってたんだな。

という60キロから。

中3の1年間でダイエットして、46キロまで減らした。

この時点で、すでに、けっこうムチャ入ってる気もする。

1年で、14キロ減だから……。

1カ月平均、1キロから2キロのあいだの減量、と考えれば、さほどでもないようにも思えるけど……。

私の、小学6年の体重、49キロ。

それよりも軽くなってる、高校1年生！

やはり「生まれつき」には、さからってる気、しません!?

しかし、だ。

「花の十代」だ!!

やせてるって、嬉しい。

太ってるトキより、確実にモテる。

服だって「——これ……。入るかなあ、入らないかも……」て悩まないで、自由自在に
選び放題だ。

気分いいったら、ない。

人間の欲って、ひとつ間違うと、とんでもないって思うんだけど。

なんとか、ヒト並みのカラダになって。服の試着なんかで恥かかなくなっただけでも、ヨシとしておけば、いーものを……。

10代の私ってば。

——もつとやせてるコたちみたいに。試着した「9号」サイズが「やだー。ウエスト、ぶかぶかなんだもーん」てゆーのを……。

やってみたいつつつ!!

て、考えちゃったんですね。

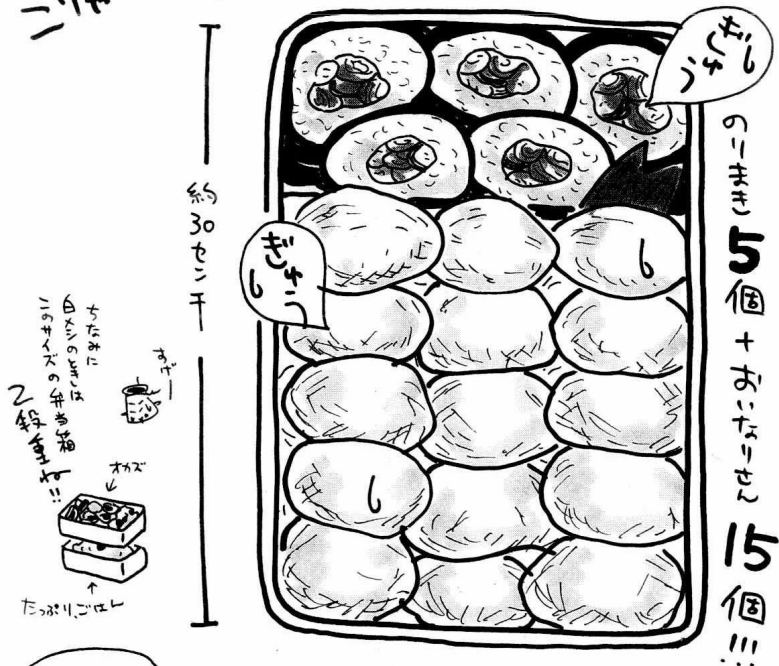
そいで。

過激なダイエットに、走った。

はつきり言って「絶食」に近かったデスよ。

イマドキなら「拒食症」の病名、つけられちゃうに違いない。

ニルカア太るワ!! #当



その後付たり
ヤセた

花#愛子のダイエット#当



朝昼は、ブラックのコーヒー。

夜も。自宅へ戻った場合「外で、トモダチと食べてきたから」と、パス。

じゃあホントに「トモダチと食べた」かとゆーと、否。

レストランなんかに行ってるのは、事実で。食べものをオーダーしてるのも、ホントなのだけれど。形式的に、ひと口ふた口食べるだけで「もう入らない」と、友人に片づけてもらっちゃったりして、な。

「どーしても」自分の目の前の料理を食べなきゃならない状況だったらば。とりあえず食べといて。食後すぐに「ちょっと、お化粧室へ……」なんて席立ってって。トイレで、全部吐いたりも、しました。

ほんとに……。

いま思えば。

——これは——……。

ビョーキだ!!